

議 題 ・ 課 題 等 提 案

目 次

頁

| | |
|----------------------------------|-------|
| I. 地場産業について（商工課）・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 ～ 7 |
|----------------------------------|-------|

1. 本市の工業について

(1) 鋳物産業

①現状

②課題

③市としての取組み

(2) サンダル履物産業

①現状

②課題

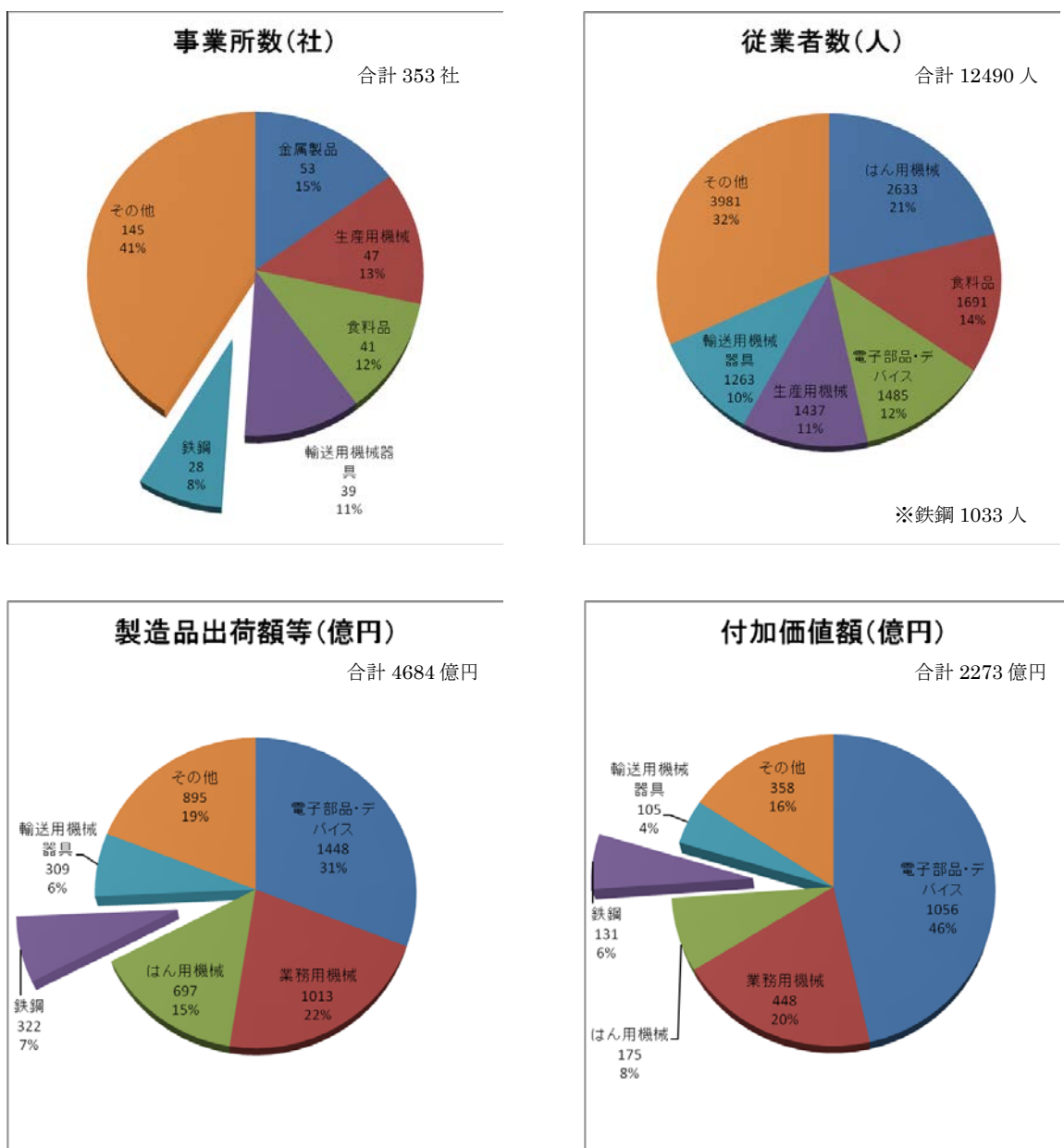
③市としての取組み

I. 地場産業について（商工課）

1. 本市の工業

本市の工業は、金属製品製造業、生産用機械器具製造業、はん用機械器具製造業などの鉄工業、アサリやシジミ等の海産物を加工する食料品製造業、鋳物（鉄鋼業）やサンダル履物などの地場産業、パソコンや携帯電話・スマートフォンの電子部品・デバイス製造業など多種多様な業種が操業しています。製造業の振興は安定的な市税の確保、市民の働く場の確保に繋がることから行政として積極的に支援していく必要があります。特に、中小零細規模の事業者が多い本市の地場産業は、地域に根差した産業であり引き続き振興への支援を行ってまいります。

▶ 本市製造業の上位 5 分類（事業所数、従業者数、製造品出荷額等、付加価値額）



※鋳物は「鉄鋼」に包含されています。

【出典：平成 22 年工業統計調査（4 人以上の事業所）】

(1) 鋳物産業

①現状

桑名の鋳物は江戸時代の鉄砲づくりが起源とされ、昭和初期にはアイロンや鍋・釜など日用品が生産され、埼玉県川口市、大阪府堺市と並ぶ一大生産拠点として発展しました。高度経済成長の頃から工業製品へと転換し、近年ではマンホールやグレーチングなどの建設資材のほか、産業用機械、一般・電気機械、自動車等の部品として、私達の暮らしを支えています。

県内鋳物産業に占める本市のシェアは、事業所数 33 社（26%）、従業者数 1352 人（41%）、製造品出荷額等 417 億円（32%）といずれも約 3 割～4 割を占めており、本市のみならず県を代表する地場産業であると言えます。

▶ 主な製造品の変遷

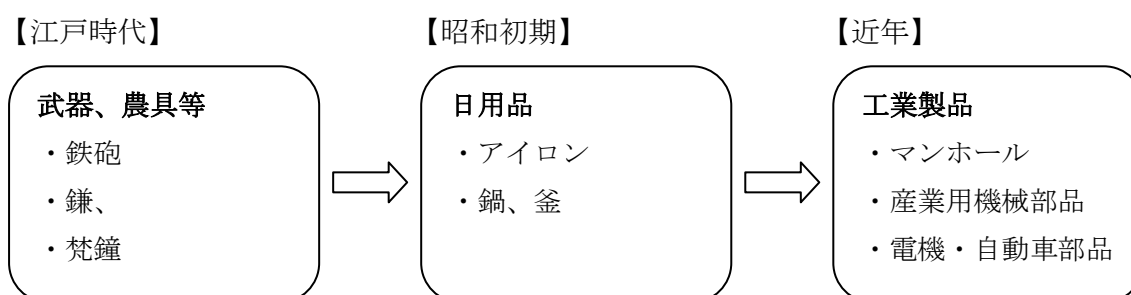


表 1 県全体に占める本市鋳物産業

| | 県全体 | 桑名市 | シェア | 県内順位 (29 市町) | 全国順位 (699 市区) |
|---------|----------|---------|-------|-----------------|------------------|
| 事業所数 | 126 社 | 33 社 | 26.2% | 1 位 | 18 位 |
| 従事者数 | 3,304 人 | 1,352 人 | 40.9% | 1 位 | 35 位 |
| 製造品出荷額等 | 1,313 億円 | 417 億円 | 31.7% | 1 位 | 73 位 |

(注) 製造品出荷額等は、生産高のほか、加工賃収入や屑鉄等の出荷額も含む。

(出典：平成 20 年工業統計調査)

②課題

本市の鋳物産業は、産業用機械、金属工作・加工機械、電気機械、自動車などの部品の製造が多いため、メーカーからの受注ロットの減少や受注単価の切り下げが企業の業績を左右します。また、最終製品であるマンホールやグレーチングは公共事業投資の減少に伴い生産高が減少しています。

鋳物業界特有の商習慣として、「重量単価方式（製品の重量で価格が決まる）」があげられます。このため、軽量・薄肉化など技術向上に反して、軽量化した分だけ価格が下がるため、複雑な工程を経る製品の場合は採算性が低くなる場合があります。また、中国や東南アジアで生産された廉価な鋳物の品質が近年向上していることに加え、

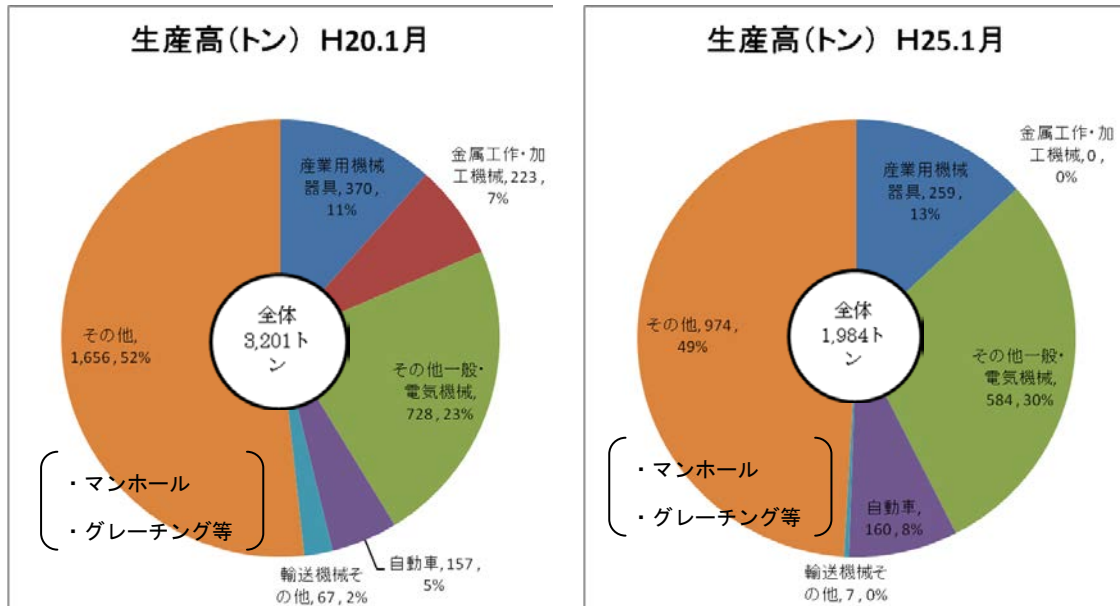
自動車や電機は現地調達、現地組立の流れが加速しているため、国産鋳物は「品質の向上、コストの削減、納期の短縮」で収益をあげることが年々厳しくなっています。

新たな活路として自社の持つ強み（技術、設備）を活かした自社製品づくりを行う中小企業が増えています。自社で製造・販売できる体制の構築は、メーカーからの受注の増減に左右されにくい経営体制として、経営リスクの分散に繋がります。

主体的な製品開発、販路の開拓は売上げの向上とともに経営の安定化につながりますし、一般家庭向けの商品は重量単価方式によらず製品価格を決定できるため、こうした付加価値の高い自社商品づくりが重要になっております。

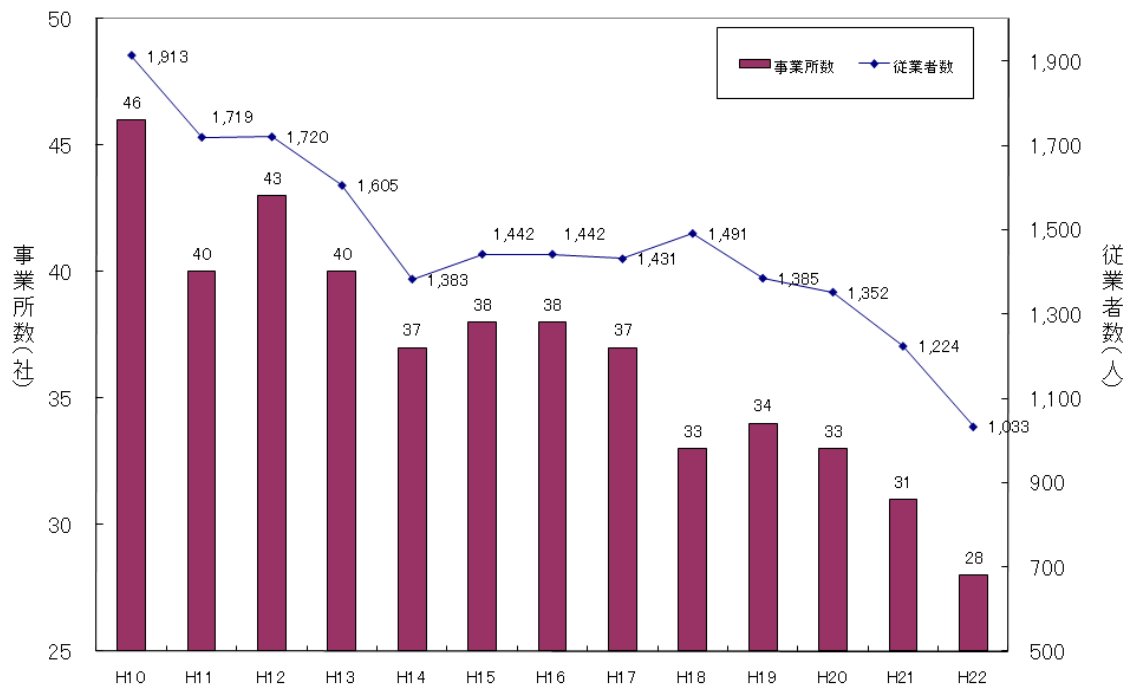
- ▶ 受注待ち（いわゆる下請け）になっており、景気の動向に左右されやすい。
- ▶ 業界特有の重量単価方式は、生産工程が複雑になるほど採算性が低くなる。
- ▶ 廉価な輸入鋳物は近年品質が向上、自動車や電機は現地調達、現地組立が加速しており、国内鋳物の競争力が低下している。
- ▶ 付加価値の高い自社製品を作り、既存の取引先に加え新たな販路を開拓することが重要になっている。

グラフ1 本市鋳物産業の構造



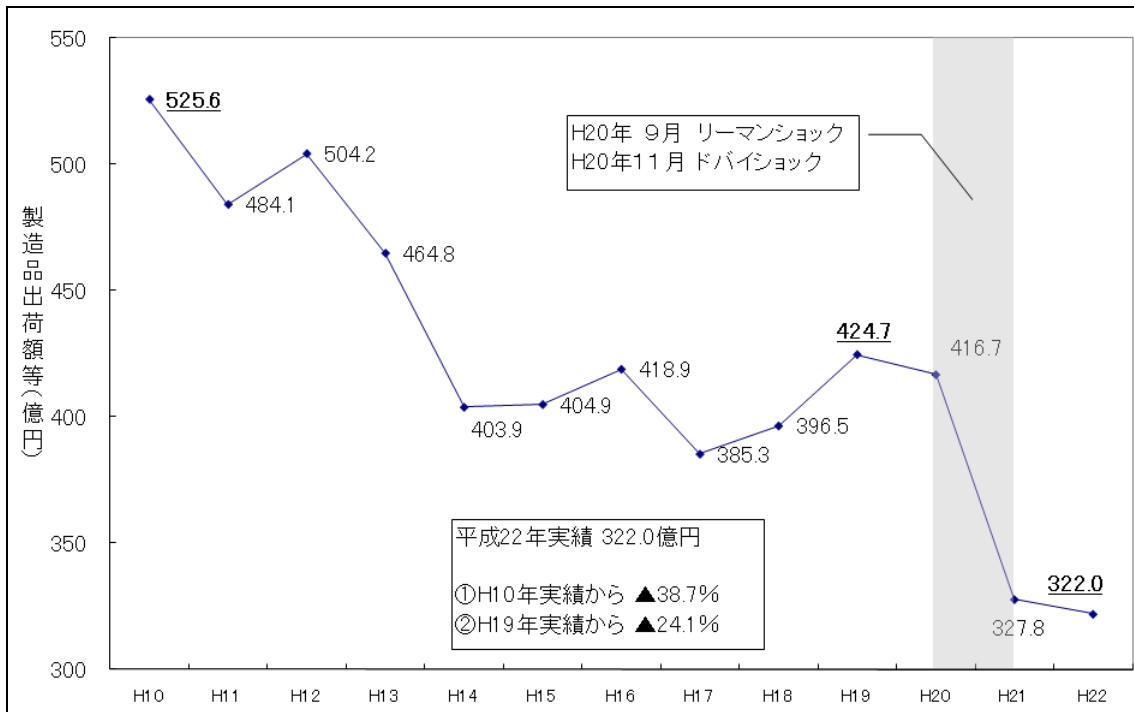
(出典：三重県鋳物工業協同組合・生産月報)

グラフ2 事業所数と従業者数の推移



(出典：工業統計調査、経済産業省)

グラフ3 製造品出荷額等の推移



(出典：工業統計調査、経済産業省)

③市としての取組み

市としては、日用品の新商品開発を通じて**新たな市場開拓**を図ることや『**くわな鋳物**』を**ブランド化し全国にPR**するため、三重県鋳物工業協同組合を中心とした新商品開発事業を平成23年度～25年度までの3年間で進めています。

これまでに試作品3点を作製し、うち2点が商品化されました。特に、蚊やり器は、松屋銀座（東京都）や家庭画報（夏号カタログ）、東急ハンズ（名古屋）で取り扱われたことから首都圏を中心に累計で2000台ほど出荷されています。（H25.7月時点）

（事業概要）

| |
|--|
| 目 的：新商品開発による新規市場の開拓、くわな鋳物の普及啓発 |
| 実施期間：平成23年度～25年度 |
| 実施主体：くわな鋳物新商品開発委員会 （鋳物組合、市、桑名商工会議所及び専門家で構成） |
| 予 算：市から当該委員会へ補助金 毎年度100万円 |
| 取組内容：試作品の検討、企画 試作品の作製、改良 展示会への出展（モニタリング、商談の実施） |

<製品化された商品>

●ごはん釜

高校生レストラン「まごの店」で有名な県立相可高校の村林新吾教諭の監修の下、IH機器に対応した調理器具の開発を進めてきました。展示会での試食、アンケート調査の実施、モニタリングを通じて改良を重ね、製品化しました。

（特徴）

- ・粉体フッ素による表面処理・・・防錆対策
- ・取っ手の大型化・・・・・・・・・・持ち運びやすい
- ・水位線の設定・・・・・・・・・・1合炊き、2合炊きの水位線を設定
- ・底部の拡大と平面化・・・・・・・・IH機器対応（ガス直火も可能）

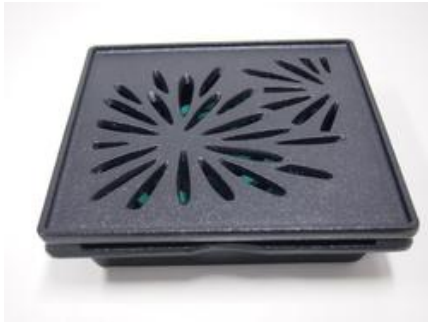


●蚊やり器

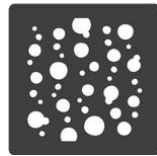
東京のデザイナーを招聘し、主に首都圏での展開を目指して開発を進めてきました。蚊取線香を置く皿としての機能だけでなく、インテリアとしても楽しめるデザイン戦略により6種のバリエーションを展開しています。

(特徴)

- ・薄く、平らなデザイン・・・安定感があり、転がりにくい。
- ・選べる6種の夏模様・・・好みのデザインを選んでいただける。
- ・懐かしいエコライフ・・・電気、電池を使わないエコグッズ



花火



泡



雲



花模様



朝顔



ろうそく

(2) サンドル履物産業

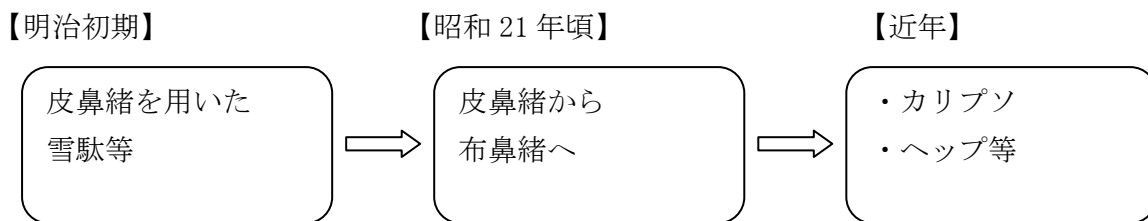
①現状

桑名のサンダル履物産業は、明治初期から続く地場産業です。

「伊勢表」といわれる竹皮の草履表の生産から始まり、草履表といえば「伊勢表」といわれるほど一世を風靡しました。大正時代には、草履、下駄に使われる布や皮鼻緒「伊勢なめし」の生産が盛んとなり、全国にその名が知れ渡りました。

近年、大手メーカーによる大量生産商品や海外からの廉価品など「質よりも値段の安さ」を求めた履物が圧倒的なシェアを占めていますが、桑名のサンダル業界では「手づくりだからこそ出来る丁寧な作り」、「履き心地や素材へのこだわり」を合言葉に、品質に妥協せず、明治初期から続く伝統と脈々と受け継がれる技でサンダルをつくり続けています。

▶ 主な製造品の変遷



※カリプソは全国シェア約 80%

②課題

桑名のサンダル履物づくりは、軽易な家内工業設備による手作り生産が主流であるため、国内大手メーカーによる大量生産品や廉価な輸入品との価格競争で大きく後れをとっています。

事業者数、出荷額は、昭和 56 年の 341 事業者、56 億円をピークに減少を続け、平成 18 年には約 20 事業者、5 億円まで減少しています。

桑名サンダル履物協同組合も組合員の高齢化や後継者不足により組合員数が年々減少しています。

| | 昭和 24 年頃 | 昭和 56 年 | 平成 18 年 |
|------|------------------|-----------------|----------|
| 事業者数 | 約 320 事業者 | 341 事業者 | 約 20 事業者 |
| 生産高 | 5～6 万足/日 | — | — |
| 出荷額 | 4.5 億円 (0.59 億円) | 56 億円 (45.3 億円) | 5 億円 |
| 備考 | 全国シェアの 25% | | |

※出荷額のカッコ内は貨幣価値を現在に換算したもの

※出典：桑名市史

③市としての取組み

桑名サンダル履物協同組合では、毎年 2 回、全国サンダルフェアに出展しています。全国の卸売業者、小売業者を対象にした見本市（全国サンダルフェア）への継続的な出展を通じて、販路開拓と商談に努めることが重要です。

(全国サンダルフェア実績)

| | 来場者数 | 商談件数 (うち新規) | 商談金額 |
|------------------|--------|-------------|--------|
| H23 年 8 月展 (大阪市) | 414 人 | 34 (2) 件 | 481 万円 |
| H24 年 1 月展 (神戸市) | 2283 人 | 47 (6) 件 | 727 万円 |
| H24 年 8 月展 (大阪市) | 319 人 | 42 (5) 件 | 577 万円 |
| H25 年 1 月展 (神戸市) | 2270 人 | 44 (7) 件 | 663 万円 |